

太陽の中の影：3世紀

—PGM VII. 846-861—

前 野 弘 志

1. はじめに

今回の『ギリシア語魔術パピルス』の試訳は5回目である。前回と前々回は「月」を裏テーマとして扱ったので、ここでは「太陽」と「影」にまつわる短い魔術を取り上げることとした。

2. 文書情報

表題の文書 PGM VII. 846-861 「太陽の中の影」⁽¹⁾ が書かれた『ギリシア語魔術パピルス』VII巻はロンドン大英博物館に所蔵（*P. Lond.* 121）されており、表裏両面に書かれた巻物で、大きさは縦33cm 横200cm、表面に2+17コラム（1*66*+1-592行）⁽²⁾、裏面に13コラム（593-1026行）があり、書かれた年代は225-320年（コラム XXVIII まで3世紀、コラム XXIX から4世紀）である。テーベあるいはファイユーム地方のアルシノエ州で出土し、1888年に購入され、初版は1893年である⁽³⁾。表題の文書は裏面のコラム XXIV-XXV（846-861行、両コラムの境は859/860行）に位置している。原文・翻訳・註釈は *PGM Bd.II, S.37*; *GMP*, p.141 を利用した。構成は【1】表題（846行）、【2】方法（846-856行）、【3】結界（857-859行）、【4】印の挿絵（860-861行）⁽⁴⁾ からなる。この文書の内容は、太陽から送られてきた影法師に自分が知りたいことを尋ねる魔術で、その影法師から自分の身を守る結界の作り方も書かれている⁽⁵⁾。試訳は以下の通り。

3. 試訳

【 】の数字は原文ではなく、構成を分かりやすくするために訳者が付したものである。（ ）の言葉も原文ではなく、意味を分かりやすくするために訳者が補ったものである。また〈 〉は原文には書かれているが、訳では省略されたものを指す。

【1】太陽の中の影。【2】（下の呪文を）唱えなさい、身を清めてから、太陽に向かって歩きながら、猫の尾の冠を被って、第5時に。「エルベト・ビオ
フ...フ.ルル..イイイ・アナク・アバレイル・ラトーローク・エルベ
 ブリタ・アムブリテラ・オーリュキスタル・ライラム・アオール・クサル
 クシ・タダリ・エーシュルファ・フォールフィ・アゲーローケー・ベパタ・
 バラ・リリュポー・フェルケー・アミアルト・テルティ・ゴーレー・アミナ
 カルファ・イルギラムー・タルフィ・テイリオーリュス・フェリア・フォル
 フォロフィ」。以上のことを唱えると、太陽の中に影が見えるでしょう。そ
 して一旦目を閉じてから（再び目を開けて）視力が回復すると、あなたの前
 に影が立っているのが見えるでしょう。そうしたら（その影に）あなたの望
 むことを尋ねなさい。【3】「エルバイゴーリュタルフテイル」。結界。（猫の）
 尾と印が円で（囲まれて）、その上に立ってしまっておきなさい、チョーク
 で（それらを）描いてから。

またそれらの印は次の通り。

【4】〈印の挿絵〉

4. 註釈

【1】表題

「太陽の中の影。」Εἰς τὸν ἥλιον σκιά· (846行)。これはこの魔術の表題である。そのPGM訳はSchatten in der Sonne、GMP訳はShadow on the sunである。どちらも太陽の光の輪の中にある影を指している。この影は後に書かれている σκιὰν ἐν ἡλίῳ「太陽の中の影」(854行)と同じ影である。普通、前置詞 ἐν には「(静止して) ~の中にいる／ある」というイメージがあり、もう一つの前置詞 εἰς には「(移動して来て) ~の中にいる／ある」というニュアンスがあるが、出所不明の105年に書かれたパピルス文書「ある乳母に宛てた手紙」(P.Mich. 3.202)の中にも εἰς が ἐν の意味で使われる用例が見られるので(8行)⁽⁶⁾、「太陽の中の影」という訳で問題ない。

【2】方法

次にこの魔術の方法が述べられる。「(下の呪文を) 唱えなさい、」λέγε (846行)。唱えるべき呪文は下に長々と書かれているが、その前に身支度や儀式を行うべき場所と時間の指定がある。つまり「身を清めてから、」ἀγνεύσας (846行)、「太陽に向かって歩きながら、」πρὸς τὸν ἥλιον ἐλθὼν, (846-847行)、「猫の尾の冠を被って、」ἐστεμμένος οὐρὰν αἰλούρου (847行)、「第5時に。」ἐπὶ ὥρας ε' (847行)。「身を清めてから」とは、「朝に沐浴をして」という意味なのだろう。あるいは「前夜に男

女の交わりを断って」という意味かもしれない。「太陽に向かって歩きながら」がどの方角を指しているかは、時間によって異なる。時間については、一つ下に書かれているので、後から説明するとして、その前の「猫の尾の冠を被って」とは、残酷で奇妙な行為である。これはどういう意味があるのだろうか。

1) 猫

古代エジプトには、ジャングル・キャットとアフリカヤマネコの二種類の猫がいた。現存する最古の猫の遺体は前4000年紀後半のもので、猫はその頃から既にペットとして飼われていたことが知られる。「猫」を意味する古代エジプト語は「ミウ」miwであり⁽⁷⁾、猫の鳴き声に由来する。古王国時代以降、様々な人名に「ミウ」が含まれた。猫が完全に神格化されたのは新王国時代においてであり、例えば「ラー（太陽神）の連禱」では、邪悪なアポフィス蛇と戦う太陽神自身の化身とされた。また末期王朝時代以降には、多数の聖なる猫がミイラにされて、地下埋葬所に納められた。猫の姿をした女神バステトは、ヘリオポリス（ギリシア語で「太陽の町」の意味）の太陽神ラーの娘とされ、「ヘリオポリスの偉大な猫」と呼ばれた。この女神は元々、雌ライオンの頭部を持っていたが、前1000年頃までに猫の頭部を持つようになり、攻撃的なイメージから、母的な守護神のイメージとなった⁽⁸⁾。このように、太陽（神ラー）と猫（女神バステト）は親子であり、結びつきが深い。猫の尾の冠は、永遠の太陽の循環を意味する「ウロボロス」の喩えなのかも知れない⁽⁹⁾。

時間について話を戻すと、「太陽に向かって歩きながら」とあるので、「第5時に」とは「（昼の）第5時に」という意味である（図版を参照）。「昼の第5時」とは、日の出から「4時間」後に始まる「1時間」を指し、季節によって異なるが、だいたい午前10時前後の「1時間」に当たる。従って、この時間帯の太陽は南南東にあったはずである。

2) 一日の時間

『ギリシア語魔術パピルス』が書かれていた頃の一日は24時間からなり、昼の12時間と夜の12時間に分けられていた。昼の12時間は、日の出から日の入りまでで、その時間を12等分して「昼の第1時」、「昼の第2時」、～「昼の第12時」と呼んでいた。一方、夜の12時間は、日の入りから翌日の日の出までで、その時間を12等分して「夜の第1時」、「夜の第2時」、～「夜の第12時」と呼んでいた。昼の長さや夜の長さは季節によって異なるので、「1時間」の長さも季節によって異なった。昼と夜の長さが同じである（厳密には異なるが）春分・秋分の日「1時間」はどれも60分で今と変わらないが、日が一番長い夏至の日の昼の「1時間」は75分、夜の「1時間」は45分で、15分ずつ増減がある。また日が一番短い冬至の日の昼の「1

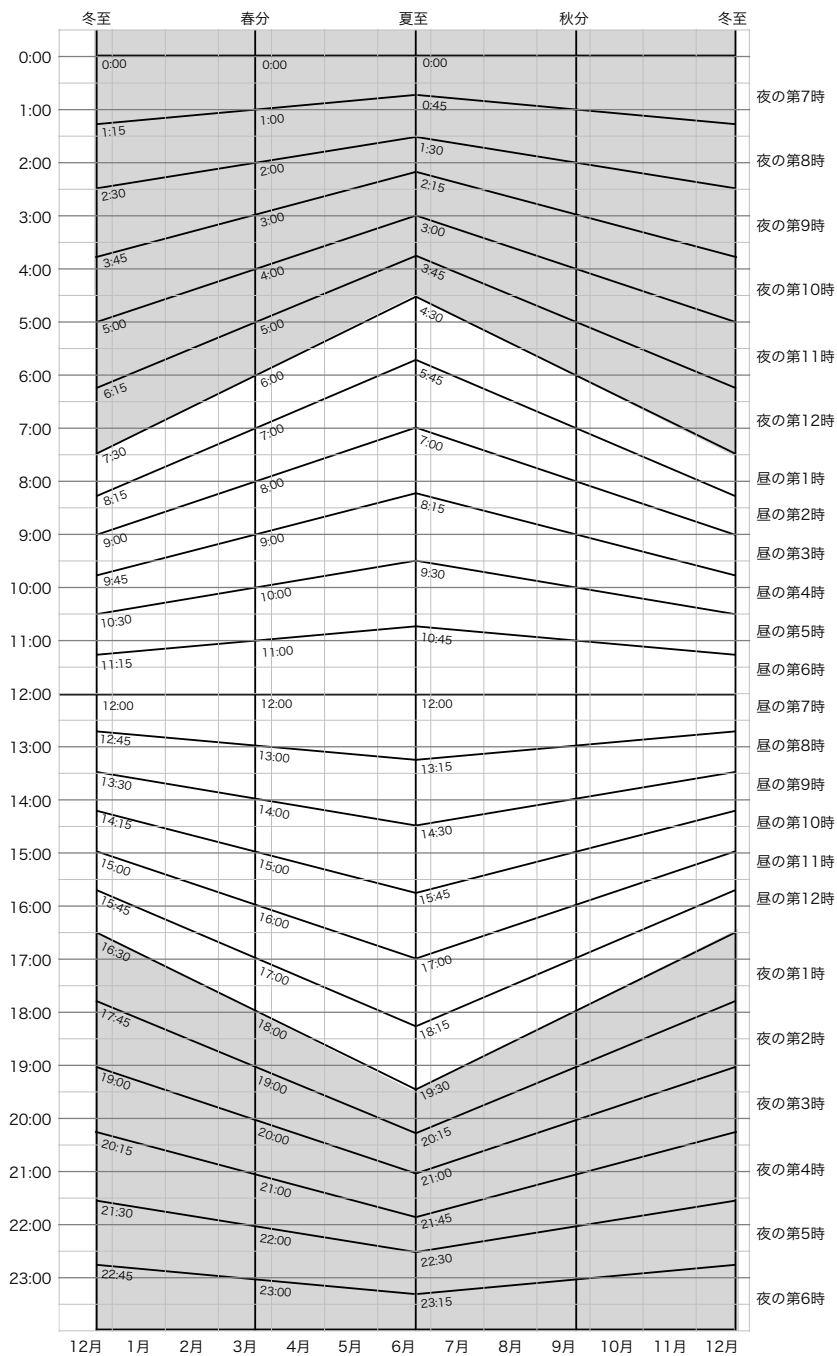
時間」は45分、夜の「1時間」は75分で、逆に15分ずつ増減がある。これら四つの日の間にある日々の昼の「1時間」と夜の「1時間」の長さは、常にグラデーション的に変化した⁽¹⁰⁾。

一日の始まりは、日が昇る「昼の第1時」で、春分・秋分の日の日の出は、日本において6時頃なので、魔術文書においても6時としておこう（以下の時間は全て、端数をとった目安としての時間である）。太陽は12時に南中し、18時に沈むものとする。日没から「夜の第1時」が始まる。夏至の日の日の出は4時30分、太陽は12時に南中し、19時30分に沈むものとする。冬至の日の日の出は7時30分、太陽の南中は12時、日の入りは16時30分としよう⁽¹¹⁾。図版は、古代ローマの一日の時間を概念的に表し、魔術文書に書かれた時間を目安として知るための道具である⁽¹²⁾。

太陽に向かって歩きながら唱えるべき呪文は次の通りである。[「エルベト・ピオ フ . . . フ . ルル . . イイイ・アナク・アバレイル・ラトーローク・エルペブリタ・アムブリテラ・オーリュキスタル・ライラム・アオール・クサルクシ・タダリ・エーシュルファ・フォールフィ・アゲーローケー・ベバタ・バラ・リリュポー・フェルケー・アミアルト・テルティ・ゴーレー・アミナカルファ・イルギラムー・タルフィ・テイリオーリュス・フェリア・フォルフォロフィ」]。'ερβεθ βιο φ . . . φ . λλ . . ιι αναχ αβαρειρ λατωρωχ· ερβεβριθα: αμβριθηρα· ωρυκισταρ Λαϊλαμ: αωρ ξαρξι θαδαρι ησυρφα φωρφι αγνηρωχη βεβαθα· βαρα λιρυσω φερχη αμιαρθ θερθι γωρη αμιναχαρφα ιργιραμου θαρφι θειρωρω[ς]· φερια φορφοροφι': (848-854行)⁽¹³⁾。これは自分が魔術を依頼する神の「名」である。この意味不明の文字列の中で唯一意味が分かるのは「ライラム」Λαϊλαμ という語である。これはヘブライ語で la'olam「永遠」を意味する⁽¹⁴⁾。

「以上のことを唱えると、太陽の中に影が見えるでしょう。」 ταῦτα εἰπὼν ὁψ[η] σκιὰν ἐν ἡλίῳ (854行)。「そして一旦目を閉じてから（再び目を開けて）視力が回復すると、あなたの前に影が立っているのが見えるでしょう。」 καὶ καμμύσας ἀναβλέψ[ας] ὁψη ἔ[μ]προσθὲν σου σκιὰν ἐστῶσαν, (855-856行)。ここで「視力が回復すると」と訳した ἀναβλέψ[ας] を *PGM* は aufblickend、*GMP* は look up と訳している。どちらも「見上げる」という意味の直訳であるが、太陽を見上げた視線のまま自分の目の前に影が立っているのを見ることが出来るだろうか。この動詞には「視力を（再び）回復する」という意味もある⁽¹⁵⁾。つまり太陽を見つめながら、あの長い呪文を唱えていた訳だから、相当に目が眩んだはずである。そして目を閉じて、視線を下ろして再び目を開けると、目の眩みが次第に止んで「視力が回復すると」、目の前に影法師が立っているのが見える、と読むべきだと著者（前野）は理解した。しかし実際には回復どころか、甚大な目の障害が起こっているのであるが、それは後述するとして、とにかく「そうしたら（その影に）あなたの望むこと

太陽の中の影：3世紀—PGM VII. 846-861—（前野）



を尋ねなさい。」 καὶ πυνθάνου, ὃ θέλεις. (856行)。つまりこの魔術の目的は、知りたいことを「知る」、一種の占いであったのである。

3) 日光網膜症

太陽を見つめると影が見えるという現象は、日光網膜症（太陽性網膜症、日食網膜症などとも呼ばれる）の症状であろう。ある医学辞典の記述を引用すれば「日食、日光浴、宗教的な原因などによって直接あるいは間接に日光を凝視したために主に青色波長によって生じる黄斑部の光化学損傷。症状は太陽凝視直後より生じる中心暗点、視力低下、色視症である」とある⁽¹⁶⁾。要するに、太陽を見つめると強い光が眼底に達して網膜の中心に炎症を起こし、視野の中心に影が見えるようになるらしい。この症状は当該魔術の記述とよく似ているように思われる。誰でも子供の時に遊びとしてやったことがなかっただろうか。下手をすると失明に至る危険な行為である⁽¹⁷⁾。

【3】結界

次に、唐突にもう一つの呪文が書かれている。「[「エルバイゴリーユタルフテイル」。] "ερβαιγωρουθαρθειρ". (857行)。呪文は常に神の「名」である。この呪文の意味は不明であるが、末尾の φθειρ はギリシア語の φθείρω「滅ぼす」を想起させる。この呪文が何のために必要なかは書かれていないが、次に「結界。」 φυλακτήριον. (857行) という語が続くので、おそらく自分が呼び出した影法師が自分に危害を加えるかも知れないので、それから身を守るための呪文と結界なのだろう⁽¹⁸⁾。その危害とは間違いなく、日光網膜症による目の障害のことを指しているに違いない。

結界の作り方は次の通り。「(猫の) 尾と印が円で (囲まれて)、その上に立ってしまっておきなさい、チョークで (それらを) 描いてから。」 ἡ οὐρά καὶ οἱ χαρακτήρες σὺν τῷ κύκλῳ, <ψ> ἐφεστήξει, γράψας κρήτη. (857-858行)。地面にチョークで円を描いて、おそらくその内側に冠として頭に被っていた猫の尾を置き、神の印を描くことによって、その円を結界としたのだろう。そして ἐφεστήξει という動詞は ἐφίστημι「～の上に立つ」の未来完了なので、儀式をする前から「その円の中に立って (= 入って) しまっておきなさい」という指示である。この円の中にいれば安全だというのだろう。最後に「またそれらの印は次の通り。」 οἱ δὲ χαρακτήρες εἰσιν οἷδε. (859行) とあり、その下に印の挿絵が示されている。

【4】〈印の挿絵〉(860-861行)

約14個のアルファベットのようないくつかの記号が二行にわたって描かれている。これが「エルバイゴリーユタルフテイル」という、自分を影から守るために呼び出された神を表す「印」（シンボル、印鑑、サインのようなもの）である。個々の記号の意味は

不明である。

5. おわりに

この魔術には、都合四柱の神が関わっていたように思われる。①儀式の対象である太陽神「ラー」ないし「ヘリオス」、②（魔術者が扮していると思われる）その娘たる「バステト」、③太陽神から送られてくる影法師（太陽神の手下なのだろう、しかし凶暴でもあるらしい）、そして、④影法師から自分の身を守ってくれる神（正体不明）である。魔術者の目論見は、太陽神の娘に扮して、あらゆる生命の源であり全知全能の父なる太陽神に依頼し、太陽神の手下である影法師を派遣させ、彼から必要な情報を引き出すことだったのだろう。

本研究はJSPS 科研費 JP26370859の助成を受けたものである。（平成26～28年度「古代ギリシア・ローマ世界における呪詛板の研究」課題番号26370859の成果の一部である）。

註

- (1) 前野弘志「『ギリシア語魔術パピルス』を読む」『西洋史学報』42 [2015] 22頁のPGMの目次 no.158「太陽の影占い」と同じ文書。
- (2) この文書のコラム数と行数の数え方については、前野弘志「悪霊・幽霊・病気・災難に対する護符」『西洋史学報』45 [2019] 118頁、註2）、註3）を参照（印刷中）。
- (3) この巻のメタデータについては、PGM, Bd.II, S.1; GMP, p.xxiii; TM 60204を参照した。
- (4) この挿絵は行に数えられている。
- (5) 当該魔術文書（PGM VII.846-861）に言及した文献の数は、管見の限りでは少なく、いずれもカタログで言及される程度である。年代順に並べると以下の通り。①占星術に関する初期のヘルメス文書は、その起源がエジプトではなくメソポタミアにあり、バビロニア・エジプト・ギリシアの占星術的伝統の混合物であるとの指摘に関連して、外国の宗教的諸要素がエジプトの宗教思想に統合ないし大規模に融合した歴史の一コマとして、グレコ・ローマン期にギリシア語とデーモチックで書かれた一連の魔術文書を取り上げ、その一つとして当該魔術文書に言及したもの（Briant Bohleke, In Terms of Fate: A Survey of the Indigenous Egyptian Contribution to Ancient Astrology in Light of Papyrus CtYBR inv. 1132(B), *Studien zur Altägyptischen Kultur*, Bd.23, [1996], S.11-46, S.17, Anm.41)、②『ギリシア語魔術パピルス』において「浄め」の文句が書かれた文書を収集し、目的別に分類した結果、

- ア) 神霊の召喚に付随するもの42%、イ) 占いや知識を得るための魔術に付随するもの40%と高いのに対して、ウ) 恋愛・愛顧・商売・成功・攻撃などに関わる魔術に付随するものは5%以下と少ない点に着目し、魔術にヒエラルキーがあることを指摘した上で、当該魔術文書をイ) のカテゴリーに分類し、その理由として魔術者は神霊の援助を獲得するために自分の身を浄める必要があったからだと推測するもの (Jonathan Shen, Purification in the *Papyrae Graecae Magicae*, *Societas Magica Newsletter*, Issue 26, [2011], p.1-6, 特に p.4, p.6)、③修士論文であるが、魔術パピルスに描かれた図像157点のリストを掲載したもので、その中で当該魔術文書を「カラクターレス」が描かれたものに分類するもの (Peta Louise McDonald, *The Iconography of the Images in the Magical Papyri*, Submitted in fulfillment of the requirements for the degree of Masters, Macquarie University, Sydney, [2015], Appendix 1, p.94)、④当該魔術文書を例として挙げ、猫が太陽神の儀式と関係したことを指摘したもの (Edward O. D. Love, *Code-Switching with the Gods: The Bilingual (Old Coptic-Greek) Spells of PGM*, Walter de Gruyter, GmbH, Berlin / Boston, [2016], p.125-126)、⑤『ギリシア語魔術パピルス』において魔術を行う時間に言及した文章をリスト化し、当該魔術文書をその一つに数えたもの (Andrea Salayová, Aspects of Temporality in Greek Magical Papyri, *Greco-Latina Brunensia*, 23, [2018], p.192) など。
- (6) P. W. Pestman, *The New Papyrological Primer*, Second Edition, Revised, E. J. Brill, Leiden / New York / Köln, [1994], 26 Letter to a Wet-Nurse, p.132 (Εἰς τὰς δύο οἰκίας「二つの家の中で」)、p.133, n.8 (εἰς; in the meaning of ἐν)。
- (7) 西村洋子『古代エジプト語基本単語集』平凡社 [1998] 42頁。
- (8) 以上、猫については、イアン・ショー／ポール・ニコルソン『大英博物館 古代エジプト百科事典』内田杉彦 (訳) 原書房 [1997]、「猫」397-398頁、「バステト」415-416頁、「ラー (レー)」567-568頁を参照した。
- (9) ウロボロスについては、上掲、前野 [2019] 114頁にまとめた (印刷中)。
- (10) アルベルト・アンジェラ『古代ローマ人の24時間—よみがえる帝都ローマの民衆生活—』関口英子 (訳) 河出書房新社 [2010／原著2007] 79頁；長谷川岳男／榎脇博敏『古代ローマを知る辞典』東京堂出版 [2004] 183頁；塩野七生『ローマ人への20の質問』文春新書 [2000] 144-145頁。
- (11) 因みに日本における2019年の、春分の日 は 3月21日、日の出 6時12分、南中12時16分、日の入り18時21分、夏至の日 は 6月22日、日の出 4時57分、南中12時11分、日の入り19時24分、秋分の日 は 9月23日、日の出 5時57分、南中12時 1分、日の入り18時 5分、冬至の日 は12月22日、日の出 7時11分、南中12時 7分、日の入り17時 3分である。以上の情報は無料携帯アプリ Diana より。
- (12) この図版は、上掲『ローマ人への20の質問』145ページにある図版「ローマ人の一

日の時間配分」を参考にして、筆者（前野）が作図したものである。

- (13) PGM は、この呪文の所々に句読点として「・」や「:」を付しているが、理由は分らない。
- (14) Brashear, W. M., *The Magical Papyri: an Introduction and Survey; Annoated Bibliography* (1928-1994), Wolfgang Haase (hrsg.), *Aufstieg und Niedergang der Römischen Welt (ANRW)*, Teil II: Principat, Band 18: Religion, 5. Teilband: Heidentum: Die religiösen Verhältnisse in den Provinzen (Forts.), Walter de Gruyter, Berlin / New York, [1995], λαλαμ, S.3590.
- (15) 古川晴風『ギリシャ語辞典』大学書林 [1989] ἀναβλέπω, 74頁。
- (16) 伊藤正男／井村裕夫／高久史磨（総編集）『医学大辞典』医学書院 [2003]、「日光網膜症」1844頁。
- (17) 筆者（前野）は危険と知りつつ、試してみた。太陽を数秒間（せいぜい5秒くらい）見つめると、太陽の中に影が現れ、目を閉じて再び開くと、自分の数メートル前に丸い影が浮かんで見えた。影はしばらくして見えなくなったが、長時間、目の疲れや視力の低下を実感して後悔した。当該魔術文書に書いてある太陽を見つめながら唱えるべき呪文を実際に唱えてみると40秒ほどかかった。それだけ太陽を凝視すると深刻な症状が出たに違いない。
- (18) φυλακτήριον という語は、基本的にあらゆる防御手段を意味するので、「結界」（PGM VII. 857）の他に、「（悪霊・幽霊・病気・災難に対する）護符」（PGM VII. 579）、「（商売繁盛の）守り神」（PGM IV. 3127）の意味でも使われている。

（広島大学大学院文学研究科）